



「立花宗茂と閻千代」物語

「こんな大河ドラマが見てみたい」 〔第3話〕

■文：小山田桐子／挿：D&N ■イラスト：大久保ヤマト
※この物語は史実を基に、一部フィクションで作成されています。

【問】市観光課観光推進係 ☎77・85603

宗茂と閻千代、幼い日の出会い、そして二人は戦国最強の夫婦へ③

鬼道雪、高橋家の長男宗茂を婿に欲しいと懇願、揺れる父紹運の心、そして決意の覚悟と、共に父から手渡される長光の剣、一方女城主閻千代は宗茂との結婚に大反発！
宗茂に課される、城の主としての試練

1578年、耳川の戦いで大友家が島津家に大敗を喫する。するとそれを機に、歯が欠けるように有力家臣たちが離反。あれだけ権勢を誇った大友氏の衰退は誰の目にも明らかになっていく。

そんな中、立花城主、道雪は盟友紹運の長男を婿に迎えたいと懇願。共に瓦解の危機にある大友家を最後まで支える決意をした紹運はぎりぎりの決断を下し、

宗茂の立花家への婿入りが決まる。強固な軍事同盟を結ぶという意味を持つ結婚であった。

別れの夜、父紹運は「今後、もし高橋が敵となった時には、迷わず儂を討て、少しでも未練を見せれば、道雪様はそれを見逃すようなお方ではない。その時は、これで自害せよ」と長光の剣を宗茂に手渡すのであった。

女としてふるまうよう道雪に強いられただけでも苛

立たしいのに、城督の立場を宗茂に譲らなくてはならないと知った閻千代は大反発。堂々とした体躯の若武者に成長した宗茂に密かに胸をときめかせながらも、宗茂を夫として認めようと思わない。

「どうしたら認めてくれるだろうか」まっすぐに問いかける宗茂に、彼女は次々

に城督としての課題を出す。右も左もわからない宗茂。しかし、彼は分からないこととは分からないと素直に認め、家臣たちに協力を求め、解決していく。そんな宗茂の姿を見て、道雪や閻千代

派ばかりだった立花城にも少しずつ、彼を支持する者が増えていく。

最後の課題として、閻千代は宗茂に「立花の義」とは何かと問う。しかし、宗茂は答えることができない。

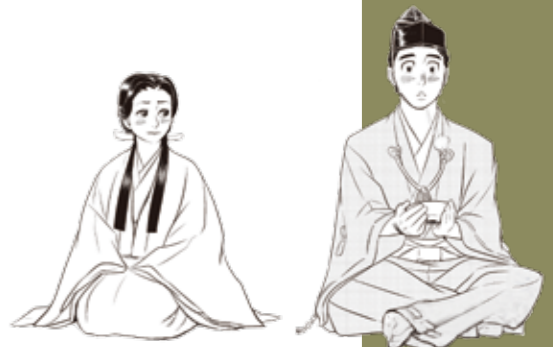
人里離れた屋敷に幽閉された敵国の姫
宗茂、道雪の手段を選ばぬ非道な一面を垣間見る

厳しいしごきに耐え続けたことで、少しずつ、体も丈夫になってきた宗茂。一入城を抜け出した彼は、ひっそりとたずむ屋敷を見つめる。その屋敷では、色姫

というはかなげな美女がわずかな従者とともに暮らしていた。大友氏に反旗を翻した宗像氏貞の妹である彼女は、道雪の側室とは名ばかり、人質としてそこに幽閉されていたのだ。

子供ながらに色姫の孤独を感じとる宗茂。すると、そこに閻千代が訪れる。彼女は色姫を慰めるため、

時々、道雪に隠れて屋敷を訪れていた。「帰りたい」子供たちを前に、ぼつりとつぶやき、涙する色姫。宗茂は道雪の容赦のない一面を感じ取る。



協賛のお願い

「立花宗茂と閻千代」NHK大河ドラマ招致柳川委員会は、立花宗茂と閻千代を主人公としたNHK大河ドラマの実現に向け、昨年からの本格的な招致活動に取り組んでいます。2人の豊かなエピソードや物語を学び、市民が地域の歴史や文化に誇りを持つことによって郷土愛の醸成へつなげることを目的としています。

また、「立花宗茂と閻千代」NHK大河ドラマ招致実現に向け、ご協賛を受け付けています。協賛1口につき、幟旗を1枚進呈しています。

■協賛金 1口1万円(何口でも可)
申し込み、問い合わせは、同委員会事務局(柳川商工会議所内 ☎73・7000、FAX73・3030、電子メール yoda@yanagawa-cci.or.jp) まで。

柳川にこの人あり

vol.81



理学療法士

篠崎 大輔さん

江曲・27歳

患者さんに歌で元気を届けたい

市民会館で8月5日に開かれた「西日本豪雨災害復興支援篠崎大輔チャリティコンサート」。立ち見が出るほど超満員で、詰めかけた観客は、約2時間にわたり篠崎さんの歌とトークを楽しみました。

篠崎さんは佐賀県伊万里市出身。地元の高校を卒業後、理学療法士になるため柳川へ。専門学校を卒業し、現在は市内の病院で働いています。歌うことは小学生のころから好きで、中学生のころは県大会の混成合唱で入賞したことも。2年前に大川音楽祭一般歌謡部門で準グランプリになったこ

とがきっかけで、歌を本格的に勉強するようになり、今年1月にはNHKのど自慢佐賀大会in伊万里でグランプリに輝きます。

高齢者と話すのが好きで理学療法士の道に進んだ篠崎さん。「現場では、どんな思いで患者さんがリハビリに臨まれているのかを、寄り添いながら聞くことが大切。歌でも、聴き手に寄り添える温かみのある歌を届けていけるようになることが目標」と篠崎さん。歌を通して、患者さんとのコミュニケーションや仕事に対する向き合い方も変わり、人間的に

成長を感じているそうです。

NHKのど自慢大会出場以来、病院の慰問や地域のお祭りなどで歌を披露する機会が多くなったという篠崎さん。「自分にできることは歌で人を笑顔にすることは歌で人を楽しませたい」と笑顔で話します。



市民会館のコンサートで歌う篠崎さん

川柳

今月の入選作品・課題

「帽子」「雑詠」

虫籠と網と帽子が納屋の隅

浦 哲之(栄)

虫を追う少年を見かけることが少なくなった。地を割り、殻を破り木肌に爪を立て耳をつんざく蟬、虫という小さな生きものは命のありようを教えてくれる。この句は季節の移りを表現したものであるが遠くたった昭和を偲ぶこともできよう。

- | | | |
|------------------|-------|--------|
| 拳手の礼凛々しく笑みてゆきし君 | 黒田和代 | (吉富町) |
| 亡き人を待つかボツンと帽子掛け | 荒巻ミエノ | (南浜武) |
| 次世代へ平和のバトン繋ぐ夏 | 山田美代子 | (下宮永町) |
| ふたたびは飛ばしてならじ赤とんぼ | 津留和巳 | (六合) |
| 風が好き風に飛ばされゆく帽子 | 吉開綾子 | (筑紫町) |
| また来てね帽子を高くふりかざす | 井口まり子 | (間) |
| 過疎の村父も帽子も黄昏れる | 阿津坂典代 | (矢留本町) |
| 藁帽子首にタオルの父想う | 鶴岡定子 | (茂庵町) |
| あこがれの昭和のスター夏帽子 | 大橋ミヨ子 | (六合) |
| 還暦の友らと赤きベレー帽 | 甲木幸栄 | (蟹町) |
| 烏帽子付け舞うは静の白拍子 | 甲斐田園一 | (吉富町) |
| 生き方を使い分けてる夏帽子 | 古賀幸子 | (横山町) |
| 赤組の帽子はつらつ孫駆ける | 梅崎省二 | (佃町) |
| 身を守る作業現場の鉄兜 | 大橋弘茂 | (百町) |
| ゲートルにモンペ帽子も遠くなり | 佐藤良子 | (蒲生) |
| 向かい風帽子すくって宙を舞う | 山口房子 | (白鳥) |
| その昔飛ばした帽子今も追う | 古賀麗子 | (吉原) |
| 時流れ小さくなった孫帽子 | 宮川規子 | (有明町) |
| 太陽に帽子かぶせて日焼け止め | 井上勝世士 | (豊原) |

川柳を募集しています。選句者は梅崎流青さん。9月の課題は「時計」「雑詠」。入選作品は10月1日号に掲載します。

●応募方法 川柳と明記し、自作、未発表の作品(※1人3句以内)に、住所、氏名、電話番号を書いて、ハガキかファクスまたは直接、柳川庁舎企画課広報聴係 ☎77・8425、FAX 74・5520)へ、9月15日(必着)までにお送りください。

のどかなり時計代わりの郵便夫

流青